

## 「滋賀県酪農・肉用牛生産近代化計画」の策定について

### 1. 趣旨

本計画は、畜産情勢の変化を踏まえ、本県の今後10年間の酪農および肉用牛の健全な発展と生産物の安定供給に向けた取組や施策を示す基本計画とする。

本年4月に農林水産大臣が公表した「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」を踏まえ、「酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律」に基づき策定する。

### 2. 計画期間

平成27年度～平成37年度(10年間) 5年ごとに策定

### 3. 経緯

平成27年 3月 平成37年度を目標とする国の基本方針策定(4月27日公表)  
6月 県計画の策定等に係る説明会(市町、畜産関係団体、県関係機関)  
環境・農水常任委員会において県計画策定について報告  
7月 近畿ブロック酪農・肉用牛生産近代化府県計画等担当者会議  
6月～8月 畜産関係機関による原案作成に向けた検討  
(担当者ワーキンググループ会議、係長等調整会議)

### 4. 県計画の構成案

I 近年の情勢の変化	
<ul style="list-style-type: none"> <li>【人】 離農、後継者不足</li> <li>【牛】 飼養頭数減少、生乳生産量の減少、子牛価格の高騰</li> <li>【飼料】 飼料価格の上昇</li> <li>【需要】 消費者ニーズの多様化、国際環境の変化</li> </ul>	
II 酪農及び肉用牛生産の競争力の強化	
1. 生産基盤強化のための取組 (1) 担い手の育成、労働負担の軽減 (2) 飼養頭数減少への対応 (3) 国産飼料生産基盤の確立	3. 家畜衛生対策及び畜産環境対策の充実・強化 (1) 家畜衛生対策 (2) 畜産環境対策
2. 畜産経営の収益力の強化 (1) 収益性向上のための取組 (2) 経営の持続的発展のための経営能力と飼養管理能力の向上	4. 畜産クラスターの取組等による畜産と地域の活性化 (1) 地域で支える畜産 (2) 畜産を起点とした地域振興
III 畜産物の安全確保、消費者の信頼確保、ニーズを踏まえた生産・供給の推進	
1. 安全な畜産物の供給と消費者の信頼を確保するための取組 2. 国内消費者のニーズを踏まえた生産・供給 3. 品目別の輸出戦略に沿った輸出の戦略的な促進 4. 畜産や畜産物に対する国民理解の醸成、食育等の推進	

### 5. 今後の予定

	県計画	市町計画
平成27年10月	市町、関係団体との意見交換	市町への作成説明会
11月	原案作成	
12月	環境・農水常任委員会(報告)計画(案)の国との協議	
平成28年 1月	計画の策定、公表	計画(案)の県との協議 計画の策定、公表
2月		
3月		

## 「家畜排せつ物の利用の促進を図るための県計画」の策定について

### 1. 趣旨

家畜排せつ物を適正に処理し、有機質資源として利用を促進することが、本県畜産の健全な発展に不可欠であることから、家畜ふん堆肥を土づくりの重要な資材と位置付け、その利用促進を積極的に推進するための基本的な計画として策定する。

本年4月に農林水産大臣が公表した「家畜排せつ物の利用の促進を図るための基本方針」を踏まえ、「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき策定する。

### 2. 計画期間

平成27年度～平成37年度(10年間)

### 3. 経緯

平成11年11月 「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」施行  
 平成12年11月 平成20年度を目標年度とする県計画の策定  
 平成20年 5月 平成27年度を目標年度とする県計画の策定公表  
 平成27年 3月 平成37年度を目標年度とする国の基本方針策定(4月27日公表)

### 4. 県計画の構成案

県計画の基本的な構成(案)	
<p><b>1 家畜排せつ物の利用の目標</b></p> <p>(1)管理と利用等に関する現状</p> <p>(2)基本的な対応方向 堆肥化の推進、エネルギーとしての利用、畜産環境問題への対応</p> <p>(3)対応の具体的方策</p>	<p><b>2 処理高度化施設の整備に関する目標</b></p> <p>(1)目標設定の基本的な考え方</p> <p>(2)施設整備の現状と望ましい処理高度化施設、機械</p>
<p><b>3 家畜排せつ物の利用の促進に関する技術の向上に関する事項</b></p> <p>(1)技術開発の促進 エネルギー利用の技術、汚水の処理技術、臭気の低減技術</p> <p>(2)情報提供および指導に係る体制の整備</p>	<p><b>4 その他家畜排せつ物の利用の促進に関し必要な事項</b></p> <p>(1)消費者等の理解の醸成</p> <p>(2)家畜防疫の観点からの適切な堆肥化の徹底等による防疫対策の強化</p>

### 5. 今後の予定

平成27年 10月 関係機関による検討、概要版(意見交換用)作成  
 11月 関係団体等の意見聴取・交換、計画(案)作成  
 12月 環境・農水常任委員会(報告)、計画(案)修正  
 県計画(案)の国との協議  
 平成28年 3月 県計画の策定、公表

## (仮称)「近江牛」ブランド・販売戦略の策定について

### 1. 平成26年度 ( 重 ) 「近江牛」ブランド力向上支援事業)

「近江牛」のさらなる高付加価値化とブランド力向上を目指すとともに、今後の販売戦略構築を図る目的で、「近江牛」の新たなセールスポイントを探るため、県内出荷牛のデータ集積およびアンケート調査を実施した。得られたデータについては、京都大学と連携し、解析を実施した。

さらに、畜産関係者等を対象に「牛肉の美味しさ評価研修会」を実施した。

○近江牛の脂質データ等集積	実施時期：平成26年7月～平成27年3月 集積数：1,499頭
○県民へのアンケート	実施時期：平成26年11月 回答数：298名
○食肉事業者へのアンケート	実施時期：平成26年10月～12月 回答数：117名
○牛肉の美味しさ評価研修会	実施日：平成26年11月19日 参加者：76名

### 2. 平成27年度 ( 重 ) 三方よし「近江牛」ブランド力強化推進事業)

「近江牛」の生産および流通関係者等と議論を重ねながら、(仮称)「近江牛」ブランド・販売戦略を構築するための取り組みを実施中。

#### (1)「近江牛」調査報告会の開催

実施日：平成27年6月9日(アクティ近江八幡：69名参加)

内容：平成26年度の調査結果について、関係者への報告会を開催

#### (2)「近江牛」あり方座談会の開催

実施期間：平成27年6～7月

内容：販売戦略構築にあたり、各関係団体から意見徴集を実施

対象団体：全農滋賀県本部、滋賀県食肉三水会、「おうみ」和牛繁殖協議会、近江大中肉牛研究会ウシラボ、滋賀県食肉事業協同組合、滋賀県食肉公正取引協議会、滋賀県家畜商業協同組合、滋賀県肉牛経営者協議会(計5回、62名対象)

### (3)「近江牛」販売戦略検討会の開催

#### ①前半(第1回から第3回)

実施日：8月11日、8月25日、9月25日

内 容：調査結果や座談会の意見等を踏まえ、農商工連携関係部局の担当者による販売戦略検討会を実施。

(仮称)「近江牛」ブランド・販売戦略(案)を策定。

#### <第1回～3回>

○参加者：企画調整課、商工観光政策課、観光交流局、農政課、食のブランド推進課、畜産技術振興センター、畜産課 各担当者、京都大学廣岡教授(アドバイザー)

#### ②後半(2回を予定)

内 容：農商工連携関係部局関係課および関係団体により、(仮称)「近江牛」ブランド・販売戦略を策定する。

#### <第4回～5回>

○参集予定：企画調整課長、商工観光政策課長、観光交流局長、農政課長、食のブランド推進課長、畜産技術振興センター所長、畜産課長、全農滋賀県本部畜産部長、(株)滋賀食肉市場代表取締役社長、滋賀県家畜商業協同組合理事長、(一社)滋賀県畜産振興協会長、滋賀県食肉事業協同組合理事長、(一社)滋賀県食肉三水会長、滋賀県食肉公正取引協議会長、京都大学廣岡教授(アドバイザー)

#### <今後の予定>

平成27年10月下旬 第4回「近江牛」販売戦略検討会  
以降、意見調整

平成28年 2月 常任委員会(原案報告)

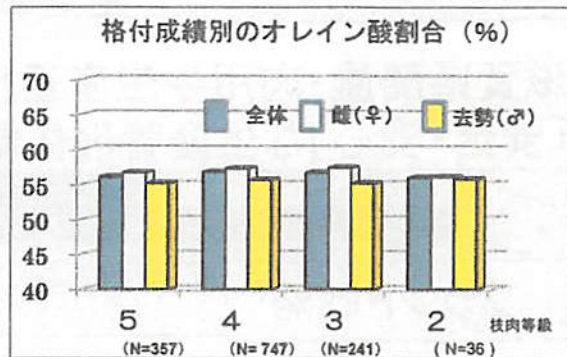
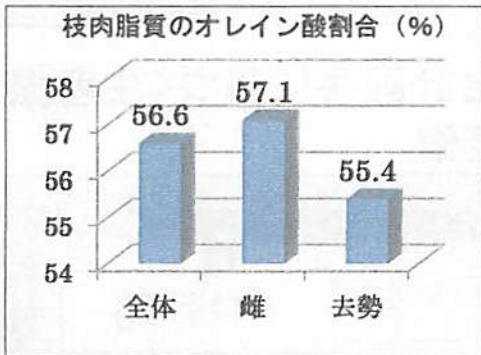
第5回「近江牛」販売戦略検討会

3月 ⇒ 「近江牛」ブランド・販売戦略を策定

## 枝肉脂質調査およびアンケート結果の概要

### 1. 枝肉脂質（オレイン酸）調査結果の概要

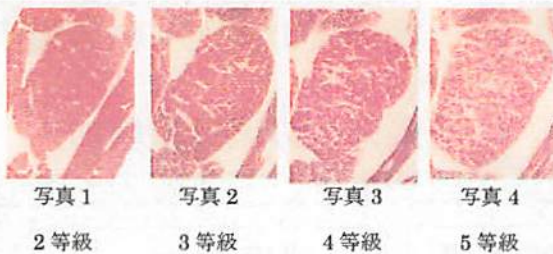
- ・全体の平均は56.6%。オレイン酸測定値については、測定部位や環境によって異なることから一概には判断できないが、他ブランドが有利販売につなげている数値（55%）よりも高い数値となっている。
- ・性別では雌の方が高く格付成績別では5等級よりも4等級、3等級が高い。



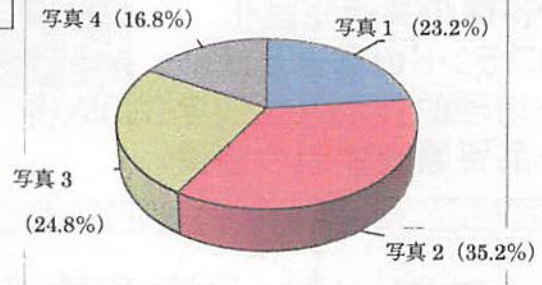
### 2. 消費者へのアンケート結果の概要

- ・近江牛については高価で高級感を感じている一方で、牛肉に対しては赤身嗜好も高いという結果。

問 牛肉の霜降りの度合いが異なる下記4つの牛肉価格が同じの場合、どの牛肉を購入したいか



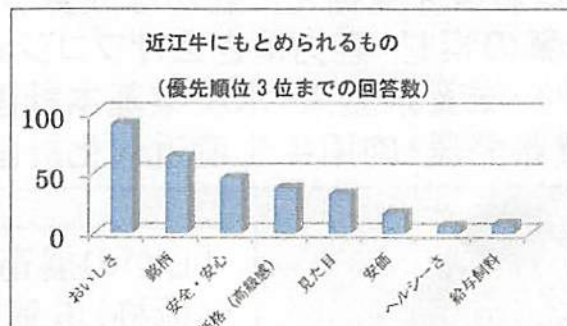
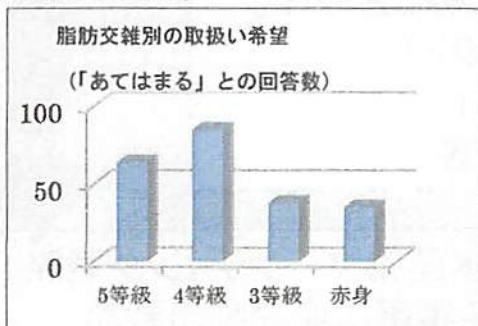
問5 牛肉の霜降りの度合いが異なる下記4つの牛肉価格が同じである場合、どの牛肉を購入したいですか。【必須】



- ・また、国産飼料を給与して育てた近江牛について、「大いに評価する」あるいは「少しは評価する」との回答が75%を占めた。

### 3. 食肉事業者へのアンケート結果の概要

- ・牛肉の脂肪交雑については、5等級よりも4等級に対する取扱い希望が多く、赤身牛肉に対する需要は比較的少数であった。
- ・今後の近江牛に求められるものとして、「おいしさ」、「銘柄」、「安全・安心」の順であり「外観（見た目）」よりも上位であった。また、「ヘルシーさ」や「給与飼料」については少数であった。



# 「近江牛」ブランド・販売戦略

戦略の  
目標

- ☆「近江牛」を日本一のブランド和牛へ
- ☆「近江牛」を核とした滋賀・びわ湖ブランドの発信

## 生産戦略

- ◇滋賀県酪農・肉用牛生産近代化計画書に基づく生産振興
- ◇「安全・安心」な生産管理体制整備

## ブランド戦略

- ①「近江牛」の特徴づけ
  - ・客観的データに基づく高品質
  - ・地域産業と結びついた牛肉生産
  - ・歴史と伝統
- ②特徴の共通認識化
- ③ブランドの磨き上げ
  - ・地理的表示保護制度(GI)取得
  - ・品質管理体制の整備



## PR戦略

- ①消費者ニーズに呼応した販売促進
  - ・「近江牛」の定義再構築
- ②農商工連携によるPR
  - ・インバウンド強化
  - ・東京など県外PR促進
  - ・露出度の向上への取組
- ③その他
  - ・県外への流通量増加



目標

H32年度

定時・定量・定質流通

消費拡大

認知度向上

国内・国際ブランド価値向上

## 関連計画・戦略

- ・「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略」  
(滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト)
- ・(仮称)滋賀県農業・水産業基本計画
- ・滋賀県酪農・肉用牛生産近代化計画書

- ・「しがの農畜水産物マーケティング戦略」
- ・(仮称)滋賀県農畜水産物輸出戦略